

行政報告

○住宅火災発生
(岩崎憲郎町長)

平成24年4月22日に船戸で住宅火災が発生し、不幸にして一名の尊い命が奪われました。その際消防団員は夜を徹して消火活動に当たられたことに對し、深く敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

お亡くなりになられた方のご冥福を心からお祈りを申し上げます。

○大豊町消防団幹部の異動
(岩崎憲郎町長)

平成24年5月11日開催の大豊町消防団幹部会において、佐藤徳治団長が勇退され、新たに桑名賀博氏が団長に、杉本公栄氏が副団長に就任されました。
佐藤徳治氏は9年間にわたり団長の要職を努め、昼夜を問わず義勇消防の精神に徹し、有事に對しては時機に即した決断と実行により、住民の生命

と財産を守るなど、その活躍に對し深く感謝を申し上げます。新体制幹部の活躍を期待します。



副団長 杉本光栄
副団長 上村行和
団長 桑名賀博

○オーストラリアから生徒19名がホームステイで来町
(吉松英喜教育長)

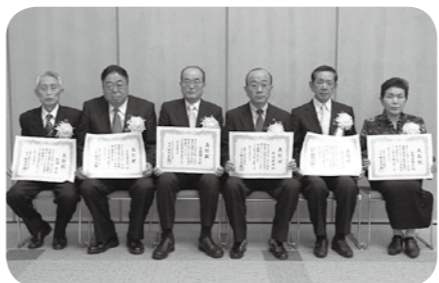
平成24年4月10日から平成24年4月12日までの二泊三日の日程で、オーストラリア、ビクトリア州のヘイリベリー・カレッジの生徒19名と引率の先生3名が来町しました。生徒は本町の13家庭でホームステイを行いながら、中学校での授業、家庭での交流など大変有意義であったと好評を得ました。特に本町の山紫水明の自然には大変感激されていました。今回快く受け入れをしていただ



音楽の授業

元町議会議員 故 小笠原春行氏 (社)全国治水砂防協会 表彰受賞

故小笠原春行氏は、四国の36市町村議会が組織する四国土砂防災ネットワーク議員連盟会長として、7年余にわたり要職を努め、(社)全国治水砂防協会の主旨にのっとり砂防行政の推進に寄与、功績が認められ会長表彰を受賞されました。永年のご功績に敬意を表するとともに、安らかなご冥福をお祈りします。



委員会の動き

総務産業建設常任委員会調査報告書

総務産業建設常任委員長 今井 安博

徳島県三好市で一般社団法人「そのの郷」の業務内容、農山村の暮らし体験(受入民泊家庭)を調査



大豊町史編纂委員会

を発刊するために大豊町史編纂委員会で、資料の収集などを行っている。発刊は平成25年度を目途としている。

○大豊町辺地総合整備計画の策定

前野由和議員
辺地債と過疎債の相異は。

都築純一総務課長

辺地債と過疎債の充当率は共に100割であるが、交付税措置が異なり過疎債では70割、辺地債は80割となっている。

総務産業建設常任委員会は、所管事項に関する調査を平成24年6月4日に行った。

四国のへそに当たる徳島県西部のし阿波観光圏(三好市・東みよし町・つるぎ町・美馬市)は、剣山・脇町・大歩危・祖谷など観光資源に恵まれているが、旅行ニーズの変化・多様化の対応には、地域自らが主体となって取り組まなければならない現実があった。

平成19年2月に官民が一体となって発足した「そのの郷山里物語協議会」が、農林家民泊での田舎暮らし体験をベースにした体験型教育旅行の開発・誘致・受け入れを進め、平成22年度には約2,300名を受け入れた。

この実績を礎とし、地域の資源・特産品を活用した着地型商品やサービスの開発・流通・販売にワンストップサービスを提供できる「観光地域づくりプラットフォーム事業主体」としての役割を担

い、地域活性化に貢献し、「住んでよし、訪れてよし」の魅力ある地域の実現を目指すべく、平成23年2月2日に一般社団法人「そのの郷」を設立した。この法人の取り組み事業は、体験型教育旅行(体験型教育旅行の誘致・受入)、着地型旅行商品(一般客向け着地型商品の企画開発・販売流通の促進)、特産品の直販等、広域観光振興事業の実施、旅行業、公共施設の管理委託などを行っている。現在の受け入れ世帯会員は17軒であるが、高齢者が多く受け入れが困難な場合もあることから、確実に受入ができる150軒強の体制を整えている。

この法人の平成24年度総売上高は、5,185万円、売上総利益265万5千円を目標としている。この主たる売上は体験型教育旅行(修学旅行)であり、4月、5月には大勢の修学旅行客を受け入れ、農家は忙しかったようである。

課題としては、修学旅行の時期が限定されているので受け入れに限界がある。雨の日の体験メニューを準備しておく必要がある。生徒のニーズが変わるので受け入れ農家も対応できるようにノウハウを高めていく必要がある。

農山村の暮らし体験(受入民泊家庭)は、三好市池田町馬路久保の林業研究クラブ「馬路・夢いっぱい会」久保進会長宅で民泊と体験学習のノウハウを聞いた。

「馬路・夢いっぱい会」は、荒れた山と耕地に手を入れながら、自らの工夫と努力で暮らしを創造することとし、日常生活や自然現象の中の疑問や不思議、すばらしさを体験し、社会がどのように変化しようとするかというテーマを見つけ、目的と目標を持ち、自ら手順と方法を考え実行し、結果を評価できるといった生き方の基礎を身につける。そして、池田町の自然の中で農林業での暮らしの楽

しさを体験することを目標としている。組織は9つの事業部(炭焼き事業部・陶芸事業部・山菜事業部・キノコ事業部・養蜂事業部・林業事業部・押し花事業部・バイオテクノロジー事業部・ボランティア事業部)からなり、すべての事業部で体験教室を開催している。

この体験教室と民泊をうまくリンクして、年中体験・季節体験等の体験型教育旅行を受け入れている。まず来訪客に對しては絶対にお客様扱いをしないこと。受け入れる側の意識を180度変えることが肝要である。15、16年前ボランティアで実施したが、とにかく疲れきっても二度と受け入れをしない農家もでてきた経過がある。

体験作業は教えるが手を出さないこと、木炭、薪作りでも教えるだけで絶対に手出ししないことが鉄則である。自身の子ども、孫のように接し、悪いことをしたら毅然として遠慮せず叱ると心

を開いてくれ、心からの交流ができる。このことによつて、日常的に問題ある子ども、不登校の子どもたちが変化してくる。教師がスタッフの案内で各受け入れ家庭を巡回訪問するが、学校とは違う生き生きとした表情の子どもたちを発見するという。子どもたちは真正面から向き合ってくれることを望んでいる。野菜が苦手な子どもも、自ら収穫し料理することによって食べるようになった事例もある。

受け入れた農林家では、子どもたちに元気をもらっているということが印象的であった。

本町の要の計画である「ゆとりすとカントリーおおとよ」の施策として、環境からの山村再生を目指すとし、地域間の交流の推進を積極的に取り組むとある。

現在取り組んでいる組織として、「あけぼの会」と「せせらぎ会」があるが、いずれも集会所を核とした取り組みである。